

フロンティア分野の戦略重点科学技術俯瞰図

資料1-5

フロンティア
分野

戦略重点科学技術：信頼性の高い宇宙輸送システム【予算総額：466億円（509億円＋補正17億円）】



※金額は平成22年度予算額を（括弧内は平成21年度予算額を）示す

目標

世界トップレベルの信頼性を持った宇宙輸送手段を確立し、我が国の総合的な安全保障や国際社会での自律性を維持する。

個別技術

宇宙輸送システム技術

宇宙輸送システム(文) 434億円(396億円＋補正17.2億円)

- H-II Aロケットの開発・製作・打上げ 169億円 (61億円＋補正17.2億円)
- H-II Bロケット 14億円 (86億円)
- 宇宙ステーション補給機(HTV) 251億円 (248億円)

GXロケット(LNG推進系飛行実証プロジェクト)【P】(文) 30億円 (107億円)

次世代輸送システム設計基盤技術開発(経) 1.5億円 (6.2億円)

戦略重点科学技術に含まれない関連施策

基幹システムの維持等(文) 43億円(43億円)

信頼性向上プログラムーロケット信頼性向上(文) 27億円(34億円)

国際宇宙ステーションの運用・利用等(文) 153億円 (154億円＋補正0.3億)

信頼性向上プログラムー基盤技術信頼性向上(文) 37億円(42億円)

固体ロケット技術の維持(文) 20億円 (2.1億円)

将来輸送系の研究(文) 8.9億円 (9.4億円)

ロケットインフラの維持(文) 110億円 (116億円)

戦略重点科学技術該当施策

基礎

応用

担当省：(文):文部科学省、(経):経済産業省、(厚):厚生労働省、(農):農林水産省、(国):国土交通省、(環):環境省、(総)総務省、(警):警察庁

戦略重点科学技術：衛星の高信頼性化・高機能化技術【予算総額：52億円(65億円)】



目標

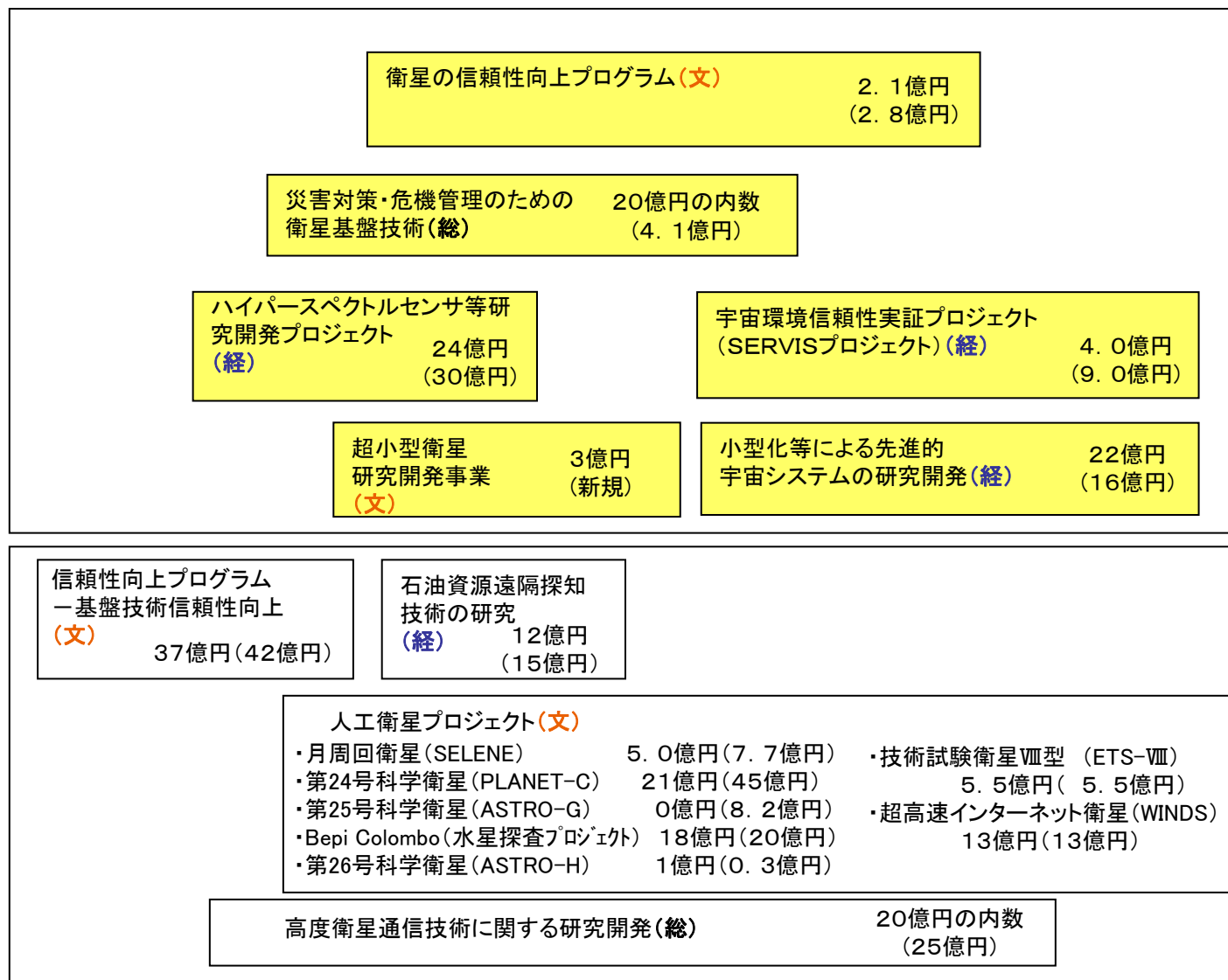
宇宙の利用・産業化や国民の安全保障に資する基盤技術を蓄積・発展させる。

個別技術

衛星利用
技術

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策

戦略重点科学
技術該当施策



基礎

応用

担当省：(文):文部科学省、(経):経済産業省、(厚):厚生労働省、(農):農林水産省、(国):国土交通省、(環):環境省、(総):総務省、(警)警察庁

戦略重点科学技術：次世代海洋探査技術【予算総額：58億円(84億円)】



目標

地球の生い立ち、生命、物質の起源について飛躍的な知識を得るとともに、我が国の海洋権益を確保・拡大する。

個別技術

深海・深海底
探査技術

次世代型深海探査技術の開発(文)
9.5億円(11億円)

次世代型巡航探査機技術の開発
4.8億円(7.1億円)

大深度高機能無人探査機技術の開発
4.7億円(3.5億円)

「ちきゅう」による世界最高の深海底ライザー掘削技術の開発(文)
41億円(66億円)

「海洋資源の利用促進に向けた基盤ツール開発プログラム」
(文)
7.0億円(7.0億円)

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策

ライザー管挙動解析技術の開発
(国) 0.3億円(0.5億円)

地球内部ダイナミクス研究
(文) 11億円の内数(12億円)

海洋・極限環境生物研究
(文) 8.1億円の内数(6.2億円)

戦略重点科学
技術該当施策

基礎 応用

普及・展開

担当省：(文):文部科学省、(経):経済産業省、(厚):厚生労働省、(農):農林水産省、(国):国土交通省、(環)環境省、(総)総務省、(警)警察庁



戦略重点科学技術：外洋上プラットフォーム技術【予算総額:0.5億円(0.5億円)】

個別技術

海洋利用
技術

外洋上プラットフォームの研究開発
(国) 0.5億円
(0.5億円)

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策

メタンハイドレート開発促進事業
(経)

45億円
(45億円)

地球環境観測研究
(文) 32億円の内数(19億円)

目標

海洋フロンティアを開拓し資源を確保する。

戦略重点科学
技術該当施策

基礎

応用

普及・展開

担当省：(文):文部科学省、(経):経済産業省、(厚):厚生労働省、(農):農林水産省、(国):国土交通省、(環):環境省、(総):総務省、(警)警察庁